

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

校番2	福山市立想青学園
最終更新日	2024年(令和6年)2月13日

I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

II 自校

ミッション	義務教育学校として、学校・地域・保護者が目標やビジョンを共有し、一体となって、主体的に学ぶ子どもたちを育てる
-------	--

学校教育目標	学びあい、育ちあう ○自ら気づき、考え、判断して行動する子どもを育成する。
--------	--

現状	<p><児童・生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びたいことや学び方を自分で考えて取り組むなど、主体的に学ぶ子供は多いが、そこから新たな課題を発見し、さらに取り組もうとする子供は少ない。 ○ボランティア活動などに積極的に参加し、人の役に立ちたいと考えている子供が多い。 ○校内外でよくあいさつをし、来校者や地域の方からもほめられる。 ●自分のよさに気づけていない子供が2割程度いる。 ●知識・技能、思考・判断・表現力に課題がある。 全国学力テスト 6年 国語58(-7), 算数61(-2), 理科62(-1) 9年 国語62(-7), 数学40(-11), 理科43(-6) ※ () …全国比 ●新型コロナウイルスの影響で体を動かす機会が減り、体力の低下がみられる。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ喜びを感じられるよう、グループごとにテーマを掲げ、授業改善に取り組むことができた。 ○地域と関わり合いながら SOSEI 学を進めることができた。 ●「学びがおもしろい」と感じていない子供が1割程度いる。 ●地域と密接にかかわりながら地域の課題を解決するような授業づくりが不十分であった。
----	--

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「表現力」, 「共感力」, 「チャレンジ精神」
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや思いを、相手が理解しやすいように、工夫しながら伝えることができる子供 ○相手の考えや思いを聞き、協働し、高め合うことができる子供 ○取り組むだけでなく、解決後も新たな課題を発見し、解決しようとしてさらに取り組むことができる子供

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観	
	表現力 表	共感力 共	チャレンジ精神 挑	
めざす子ども像	レベル1	自分の考えや思いを伝えることができる。	相手の考えや思いを聞くことができる。	あきらめることなく、果敢に取り組むことができる。
	レベル2	自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように伝えることができる。	相手の考えや思いを聞き、相手に寄り添うことができる。	目的意識を持ち、試行錯誤しながら取り組むことができる。
	レベル3	自分の考えや思いを、相手が理解しやすいように、工夫しながら伝えることができる。	相手の考えや思いを聞き、協働し、高め合うことができる。	取り組むだけでなく、解決後も新たな課題を発見し、解決しようとしてさらに取り組むことができる。

研究	テーマ	学ぶ喜びを感じられる授業づくり
	内容	SOSEI 学や各教科をつなげながら、子供が学ぶ喜びを感じられるような授業づくりに取り組む。
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども主語と教材主語を意識した教材研究を中心に据えた授業 ・他者との共有によって、自分の考えを深めたり広めたりする授業 ・自分に合った方法や場所を選ぶことができる授業 ・教師が一方向的に教え込むのではなく、子供が問いをもち、自ら解決に向かう授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立想青学園

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
							□指標に係る 取組状況	力切 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期/中期経営 目標の達成状況	力切 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策	
2	地域とともに 学ぶことに喜 びを感じられ る子供を育成 する。	★	継続	① 「地域に愛着を 持っている。」 児童・生徒肯定的回答 95%以上 ② 「学ぶことが楽し いと感じている。」 児童・生徒肯定的回答 90%以上	① SOSEI学で地 域と密接に関 わりながら、地 域のよさを見 つけたり地域 の課題を解決 したりするよ うな授業づく りに取り組む。 ☑ ☑ ② 研究教科ごと にグループを 作り、「学ぶ喜 び」を感じられ る授業づくり の実践・検証・ 交流を行う。 ☑	① 「SOSEI学などの授 業を通して、地域 のよさを見つけるこ とができた。」(低学年) 「SOSEI学などの授 業を通して、地域 のために役立ちたい という思いが高まっ た。」(高学年) 児童・生徒肯定的回答 95%以上 ② 研究授業ごとに、グ ループで「授業検討」 →「研究授業」→「振 り返り」を行うと ともに、個人でも自分 の日ごろの授業を振 り返る時間を確保す る。	「地域に愛着を持っ ている。」94.3% 「SOSEI学などの授業 を通して、地域のよさ を見つけることがで きた。」(低学年) 「SOSEI学などの授 業を通して、地域のた めに役立ちたいとい う思いが高まった。」(高 学年) 前期後期計 87.3% 「学ぶことが楽しい と感じている。」 86.7% 教材研究に重きを置 き、研究授業ごとに 授業検討をしっかりと 行うことができた。	3	3	・SOSEI学を引き 続き地域と関わ りながら進めて いき、SOSEI祭 等の場で地域へ 発信したり実行 したりさせるこ とで、達成感を 味わわせる。 ・学力テストをも とに考えた各学 年・各教科の取 組や授業を確実 に行う。 ・算数をTTで行 うことで個々の 支援を行い、わ かる喜びを実感 できるようにす る。 ・否定的回答をし た児童生徒の思 いを全職員で共 有し、個別の声 掛けの充実を図 る。	「地域に愛着を持 っている。」 92% 「SOSEI学などの 授業を通して、地 域のよさを見つけ ることができた。」 (低学年)「SOSEI 学などの授業を通 して、地域のため に役立ちたいとい う思いが高まっ た。」(高学年) 前後期計87% 「学ぶことが楽し いと感じてい る。」83% ・毎月一人一人が自 分の取組を振り返 る機会を設け、確 実に取り組むこと ができた。	4	4	4	・SOSEI祭 2nd で見に来てくれ た人に感想を書 いてもらい、そ れを掲示するこ とで、地域の役 に立った実感や 達成感を味わ わせる。 ・各学年ごとに、 「学ぶ喜び」に 関する子供の回 答や実態に 応じて「学ぶ喜 び」を実感でき るような取組を 考え、毎月振 り返りながら 確実に取り組 んでいく。	
2	共感しあう 集団づくり を通して、 自己肯定感 を育成する。		継続	① 「自分のことが好 きである。」 児童・生徒肯定的回答 85%以上 ② ボランティア 活動や委員会 活動を積極的 に実施し、他者 のために行動 できる場の設 定を行う。☑	① 各教科、特別活 動、部活動等 を通じた協働 的な集団作り に取り組む。☑ ☑ ② 児童生徒に対 して、全教職 員が肯定的声 掛けを行う。 ② 「人の役に立ちたい」 というアンケートの 肯定的評価を高 める。 児童・生徒肯定的回答 85%以上	① 「学校が楽しい」と いうアンケートの肯定 的評価を高めた。 児童・生徒肯定的回答 85%以上 ② 「児童生徒に対して肯 定的声掛けを行って いる」 教師肯定的回答 100% ② 「人の役に立ちたい」 というアンケートの 肯定的評価を高 める。 児童・生徒肯定的回答 85%以上	「自分のことが好き である。」 68.5% 「学校が楽しい」 90.8% 「児童生徒に対して肯 定的声掛けを行って いる」 100% 「人の役に立ちたい」 84.5%	3	2	・児童生徒に対 して肯定的声 掛けを行って いるので、継続 して取り組む が、より声掛 けを具体的に にして、自分 (児童生徒)の どんな所が受 け入れられた かが伝わるよ うにする。 ・どの委員会も 常時活動を仕 組んでいく。 ・週1回、ラン チミーティン グを行い、児 童生徒が中心 になって委員 会活動を進め ていけるよう にする。	「自分のことが好 きである。」 72% 「学校が楽しい」 89% 「児童生徒に対 して肯定的声掛 けを行っている」 100% ・多くの場面で 児童生徒への肯 定的な声掛け ができた。 「人の役に立ち たい」 83% ・募金活動への 参加意欲は高 かった。	3	3	4	4	・児童生徒の 小さな変化・ 成長に対して 教員が評価 し、本人に気 付けさせる。 ・取組があれば 参加をする児 童生徒が多い ので、ボラン ティア活動を 計画的に実施 していく。

2	自己の体力の課題に向き合い、ねばり強く挑戦し続ける子供を育成する。	継続	①体力を向上できた子供 1回目:6月 2回目:10月 伸びた子供 70%以上	①運動の心地よさ、体を動かすことの楽しさを感じることでできる場の設定	①体を動かすことが楽しいと感じる児童・生徒 児童・生徒肯定的回答 85%以上	「体を動かすことが楽しい」 90.6%	3	3	・メディアブースや体育館に重点科目を意識したスポーツコーナーを設置し、休憩中に取り組めるようにする。 ・トレーニング集のスライドをクラスルームに配布し、家庭や部活等で意識して取り組めるようにする。 ・「がんばりカード」を配布し、繰り返し体力づくりに取り組んだ児童・生徒を評価する。	「体を動かすことが楽しい」 88% 「体力向上を達成した児童・生徒の割合」 63.3%	4	4	4	・課題種目に対する体育の授業で行う運動を、全校で統一し、確実に行う。 ・委員会と連携した体力向上に向けたイベントを定期的実施し、児童・生徒の意欲や継続性につなげる。
				②体力テスト結果をもとにした早期からの学級目標の設定 <input checked="" type="checkbox"/>	②学級課題1種目を設定し、体力向上を達成する。 体力向上を達成する児童・生徒の割合 70%以上	・運動場が使えない中、体育ブースを設置することで、体育ブースで体を動かしたり、握力や反復横跳びの記録会を行ったりして、大休憩や昼休憩に楽しみながら体を動かす姿が増えた。								
2	限られた時間の中で質の高い教育を実現する。	★ 継続	①働き方改革の推進 ・時間外勤務 月45時間未満 年間360時間未満 達成率100%	①時程の見直しによる週1回の定時退校日の確実な実施 ②業務の見直しの場の設定(日常的に) ③三者懇談前など、勤務時間内に成績の整理等ができる時間の確保 ④三部会を月1回行い、見直しをもって業務を行えるようにする。	①「教育活動に意義ややりがいを感じる」 教師肯定的回答 100% ②「授業づくりにあてる時間を確保できている。」 教師肯定的回答 90%以上	時間外勤務 月45時間未満 67.1% (4~7月) 「教育活動に意義ややりがいを感じる」 93.6% 「授業づくりにあてる時間を確保できている。」 80.6%	3	3	・授業づくり以外にどんな業務に時間がかかっているか、どうやったら授業づくりにあてる時間が確保できるかを全職員で出し合い、業務改善を行う。 ・各部会で業務の精選や分担の見通しができる機会を設ける。	時間外勤務 月45時間未満 76.1% (8~1月) ※8月除く 65.2% 「教育活動に意義ややりがいを感じる」 93.7% 「授業づくりにあてる時間を確保できている。」 84.4%	3	3	3	・SOSEI祭等で高い学習効果はあったものの、比例して時間外勤務の時間が増加している。今後は行事の精選、簡略化など、負担感の軽減を図っていく。 ・教務部と連携を図り、授業づくりやその他業務の時間を少しでも確保できるような時程づくりを行う。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。